

事 項	りんご「ふじ」の頂芽花が散り始める日は摘花剤散布適期の目安として利用できる		
ね ら い	りんごの摘花剤で安定した高い効果を得るためには散布のタイミングが最も重要である。散布適期は頂芽花の全花数の70～80%開花した時（満開日）とされているが、実際場面では、肉眼観察による正確な開花率の調査、樹及び圃場全体の観察等、その判定作業には習熟と労力が求められる。「ふじ」の満開日と頂芽花花弁の落下現象の関係を検討したところ、頂芽花の散り始める日が満開日とほぼ一致し、わかりやすい摘花剤散布適期の目安として利用できることが明らかになったので参考に供する。		
指 導 参 考 内 容	<p>1 「ふじ」の頂芽花が散り始める日は、観察時刻を午後1時頃とした場合、マルバカイドウ台樹とわい性台樹のいずれでも、摘花剤の散布適期である満開日とほぼ一致する。</p> <p>2 利用方法</p> <p>(1) 摘花剤の散布を予定している樹が散布適期に到達したかどうかの判定は、開花率だけでなくこの現象も参考にして行う。</p> <p>(2) 開花の進みや花弁の落下は樹勢の強弱によって違いがみられる。圃場内で樹勢のばらつきが大きい場合、一部の生態の早い樹に合わせて摘花剤を一斉散布すると、多数を占める生育の遅い樹の中心花が落ち過ぎるおそれがある。散布タイミングは、必ず圃場全体の開花状況を観察してから決める。</p> <p>(3) 圃場が、満開日近くに強風と遭遇した場合、風の力で花弁が落ちることが予想されるので、その場合、散布適期の判定は開花率に基づいて行う。</p>		
期待される効果	開花が満開に到達したかどうかの判定がしやすくなり、摘花剤の適期散布によって摘花効果の安定化が図られ、摘果作業が省力化される。		
利用上の注意事項			
担 当 部 署 (担当者名)	青森県中南地域県民局地域農林水産部普及指導室 (町田郁夫)	対 象 地 域	県下全域
発表文献等	平成18年度普及指導員調査研究成績書		

【根拠となった主要な試験結果】

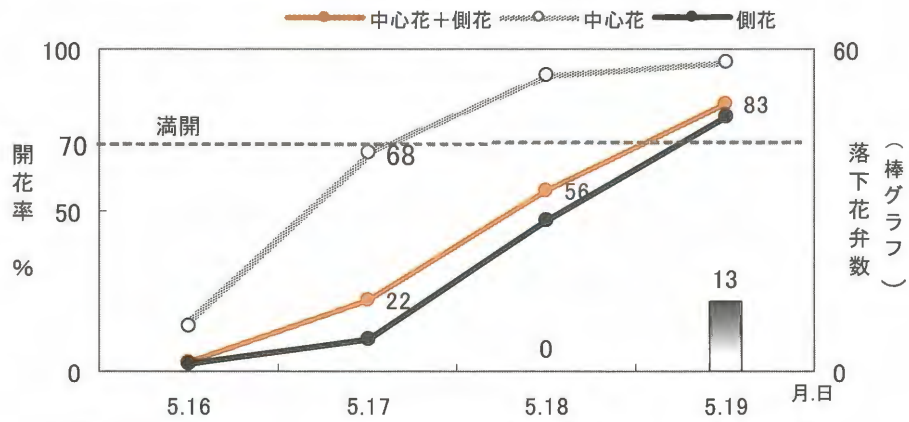


図1 「ふじ」のマルバカイトウ台樹における開花率と落下花弁数の推移
(平成18年 中南普及指導室)

(注) 弘前市五所、樹齢：30年生(推定)、調査花そう数：50

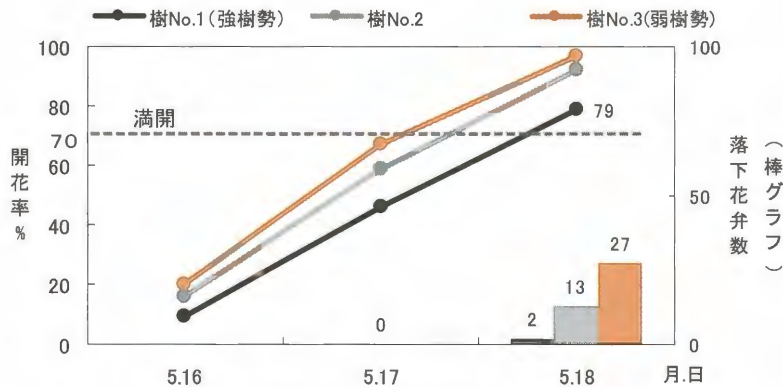


図2 「ふじ」のわい性台樹における開花率と落下花弁数の推移
(平成18年 中南普及指導室)

(注) 平川市広船、台木：マルバ[®]付M.26、7年生、調査花そう数：20/樹



図3 満開日のわい性台樹



図4 散り始めた満開日の頂芽花

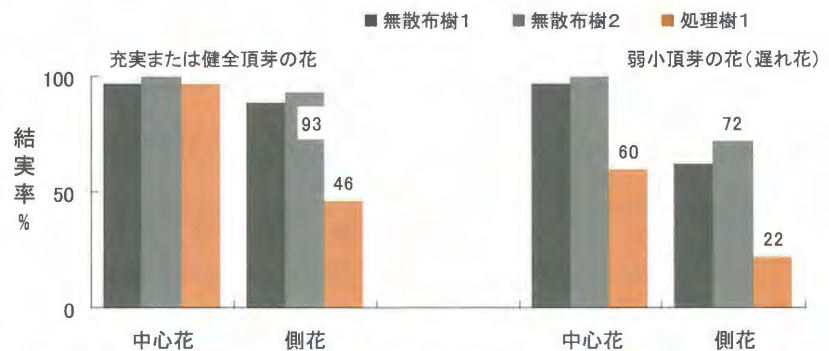


図5 頂芽花の散り始めに摘花剤を散布した「ふじ」における摘花効果
(平成18年 中南普及指導室)

(注) 弘前市五所、マルバ[®]カイトウ台樹、人工授粉を実施(充実した頂芽中心花のみ)、散布日時：5月19日、午後3時30分～、S.S.で石灰硫黄合剤100倍を散布、散布量：350リットル/10a